

活性化？ 分断加速？

# 「トランプ後の

# 米国社会」 中谷 巖

一橋大学名誉教授／「不識塾」塾長



いよいよトランプ政権が発足する。異色の大統領は世界をどう変えるのか。『不識塾』での二か月にわたる「資本主義の転換」に関する議論を踏まえ、「トランプ後の世界」について『不識塾』塾長の中谷巖がまとめた。

だ。大型減税、大型インフラ投資など、レーガノミクスの再来を思わせる内容は投資家に「オバマ政権とは違う」という期待を抱かせた。「分断」は是正されない

たしかに、トランプノミクスは金融市場を活性化させたが、他方では、自動車メーカーのメキシコ立地に待ったをかけるなど、大衆受けを狙った保護主義的言動も目立つ。しかし、輸入課徴金や「メキシコとの壁」が米国社会の「分断」を是正させるとは思えない。トランプノミクスの基本は「金融市場優先」「富裕層優遇」だからである。

トランプノミクスはレーガノミクスと同じく、やがて財政赤字と貿易赤字という「双子の赤字」の拡大をもたらすだろう。大型減税と公共投資で財政赤字が膨らみ、ドル高はアメリカの輸出競争力を低下させるからだ。

レーガン時代の「双子の赤字」はプラザ合意（ドル大幅切り下げ）で乗り切ったが、今回は日独両国に当時ほどの経済余力がなく、「新プラザ合意」はあり得ない。トランプノミクスの出口はあまりにも不透明だ。いずれにせよ、トランプ・ラリーがいつまでも続くわけではない。トランプ政権に対して「根拠のない甘い期待」は禁物だ。

トランプはその分断を打ち破ると期待されて当選した。果たしてトランプ政権はその期待に応えることができるのか。続くか？「トランプ・ラリー」

トランプ当選後、ドルが急騰、ダウ平均株価も史上最高値をつけたが、金融市場がこのような反応を示したのは、トランプの政策がことごとく「親ビジネス」「親金融市場」「親富裕層」的だとみなされたため

世界を読み解く 第2回

# 不識塾